

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 アンデリュウ・ジッツマン	職名 講師	学位 修士(言語学)(マクウォリ大学 2008 年)
-----------------	-------	----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
クリティカルシンキング 社会言語学	異文化コミュニケーション アイデンティティ 学習環境の認知度

研 究 課 題
オンライン学習環境の認知度 アイデンティティの確立

担 当 授 業 科 目
英語コミュニケーション I, II 英語プロジェクト I, II ライティング基礎 パラグラフ・ライティング エリア・スタディ II 専門演習 I, II 卒業研究

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【英語コミュニケーション】 このコースでは、台本通りの会話ではなく、様々なボキャブラリーを使って自分で会話をすることを目指した。また、このコースでは、学生が次のレベルの会話能力を身につけるための実用的な側面にも注意を向けることを目的としている。しかし、オンラインでの授業ということもあり、今年は非常にチャレンジングなものとなった。
授業科目名【英語プロジェクト】 このコースは今年の新しいコースで、学生が積極的にディスカッションやプレゼンテーションに参加することを目的としている。グループワークを多く取り入れようとしていたが、残念ながらオンラインという状況のため、これを実現することは困難であった。個人のプレゼンテーションは成功したが、ディスカッションとグループのプレゼンテーションは、オンラインであることに大きく影響された。
授業科目名【ライティング基礎】 何年も英語を書いても、生徒たちが問題とする基本的な要素はたくさん存在する。そこで、基礎的な部分を強化し、エッセイやリサーチレポートなどの大規模なライティング課題に備えられるように、地道なサポートを行った。オンラインの状況で生徒のライティングをサポートすることはより困難なものだったが、生徒はなんとかコースの要求を満たすことができた。
授業科目名【パラグラフ・ライティング】 アイデアをパラグラフ形式にまとめることは簡単なことのように思えるが、多くの生徒がこれをうまく行うことができない。このコースでは、様々な種類のパラグラフに焦点を当て、その知識をエッセイライティングに移す方法を説明した。パラグラフからエッセイへの移行は、多くの生徒が苦手とする問題であり、このコースはそれを修正することを目的としている。オンラインであるがゆえに、長いライティング文の作成を支援することは非常に困難であった。

授業科目名【エリア・スタディ II】

隣国についての知識を持つことは、国際理解のための重要なステップとなる。このコースでは、ASEAN の国々に焦点を当て、彼らがお互いに、そして日本とどのような関係にあるのかを考察した。学期のほとんどをオンラインで過ごしたが、リサーチやプレゼンテーションは個人で行うことができた。最初の学期をオンラインで過ごした経験が、学生のオンラインでのプレゼンテーションスキルを高め、コースを成功させることに繋がった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	北九州支部報告担当（2019 年 11 月～現在に至る） 学会ビジネス・マネージャー(2006 年 11 月～2010 年 11 月) 学会企画担当理事(2004 年 7 月～2006 年 11 月)	1994～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) Seize the Keys of the TOEIC L&R Test	共	2020	金星堂	このテキストは、TOEIC を受験する学生のためのものである。文法 解説・語句解説などを詳細に行っており、受験しない学生にとっても英語力の増強が見込まれるよう配慮している。
(学術論文) Implementing a Peer Support Program for Incoming College Students: Assessing Effectiveness	共	2020	西南女学院大学紀要	この報告書は、英語学科に入学した新入生のための新たなピアサポート・プログラムの改善状況と両学年の学生たちへの効果を明らかにした。さらにこの報告書は、他の機関で実施されているプログラムに加え、今回の関係学生に対して行なった複数の方法を組み合わせた調査結果とコメントに基づきさらなる改善策を示唆するものとなった。
(翻訳)				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) A Peer Support Program for Incoming Students	共	2020年5月	全国語学教育学会第19回 Pan-SIG Conference	本発表では、大学1年生を対象としたピア・サポート・プログラムの開発と実施について紹介し、このプログラムの開発段階について説明した。現在のプログラムについては、新入生を大学に統合するための成功したプログラムとして紹介。
Hosting a Foreign Exchange Student		2020年9月	Rotary International 門司西部	日本で外国人留学生を受け入れる際の先入観とその後の経験についての発表。
Peer Support for Incoming Students	共	2020年11月		本発表では、大学の新入生をサポートするための様々な方法について説明。この発表では、新入生支援するための様々な方法について、実際に実施した結果を紹介し、求める成果に応じた代替案を提案した。また、これらのプログラムの参加者からのフィードバックも紹介。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 期 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生委員 就職委員 学生個人情報保護委員 オープンキャンパスオンラインアクティビティの企画検討を行う。 第二回 KANAME 杯委員 ZIONCUP（スピーチコンテスト）の委員となって企画検討を行う。 Halloween イベントの企画検討を行う。